



ら。  
**佐藤** アンテナショップを札幌に出展してみたいかですか。留萌のグッズや観光案内を常に発信できると思いますし、効果的だと思います。

**対馬** 私もそう思いますね。雑誌社にアンテナショップのことを紹介してもらおうとしましたが、定期的なもの、もう一つインパクトが足りないということ、紹介されませんでした。留萌をPRするためには、情報システムやメディアの活用を勉強し、情報を上手に流すことが必要なことだと思います。

**大内** 日本海で取れる魚は一番うまいと太鼓判が押されています。また、留萌でも波の華が見れますし、きれいな海、山、夕日など、留萌管内の沿岸はとても美しいと思います。

その豊かな自然を活用して広域的にアピールをどんどんした方が良いと思います。

**市長** 広域的な視点、観点を生かしたまちづくりはとても必要なことだと思います。

現在、留萌市は港の整備を進める一方で、フェリー就航早期実現を目指しています。そのフェリー就航に道北・道央地域からエール



**近江** 細坪さんからのアドバイスで「自分がどうありたいのか、どうやって生きていきたいのか」そして、自己アピールを常に行うことが大切なことと教えられました。

留萌も人口は減っていますが、もっと、もっと地方にアピールして、観光客を呼び込むことが必要だと思います。

**対馬** 21世紀に向けてのまちづくりが進められている中で、地元の人たちももっと、もっと地元をアピールすることが大切なことだと思います。このチャンスに気づかない人や消極的な人、又、批判ばかりする人もいます。でも、美しい留萌のマチを自分たちで築く楽しさを知ってほしい。

その美しいまちづくりの一つとして、昨年からはじめた「ごみの分別システム」は大変良かったと思います。なぜ、もっと早くしなかったのかと思います。

**近江** 商売上、出しているごみに常々疑問を持っていましたが、一人ではどうしようもできませんでした。

留萌市が取り組んだ、ごみの分別は大変良かったと思います。  
**市長** ありがとうございます。正直なところ、ごみの分別収集が一番不安でした。しかし、市民の皆

が送られています。また、全国市長会では、今まであまり話しをしなかった日本海側の各市長が、私にそばに寄ってきまして、フェリーについて話しをするようになりました。四国のある市長からは、昔の北前船の話を持ち出されて是非、私の市と航路を結んでくれないかと、逆に相談も受けました。この物流システムには、多くの



期待感が高まっているのを感じています。

**佐藤** 港をつくるのに多くのお金がかかると思います。

**市長** お金がかかることは事実ですが、そのうち国費が90%前後で地元の負担率は非常に低い事業です。問題は、造ってきた港をどう活用していくのかが大きな課題でしょうね。

さんの協力があつたからこそ、実現できたと思います。本当にお世話になりました。市の職員も本当に頑張ってくれたと感謝しています。更に藤山地域の住民の方々や女性の皆さんには心から感謝しています。今年4月からは資源循環型廃棄物処理施設「美・サイクル館」の供用が開始します。全国にも誇れるこの施設は、留萌っ子の頑張りや誇れるシステムだと確信しています。

まだまだ続く市民参加のまちづくりは、本年も市民会議を継続しつつすすめていきたいと思います。

**佐藤** 農業をする方と一緒に、何か新しい作品に取りかかって見たいと思いますね。商品価値がない野菜なども、考えて見ればいろいろと使い道がありますよ。

**近江** 市民農園で取れた作物を商品化するのいいと思います。

**大内** 私も市民農園を利用し、積極的に野菜を作っています。外国の種をもらって育てたりして、ゆつくり楽しみながら栽培しています。

畑づくりは留萌に来て学びました。私たちの周りには、楽しみながらできることが沢山あります。若い人も、高齢になった人もチャレンジ精神をもって、いろんな

**佐藤** なるほど。お金がかかるからやらないというよりは、その活用方法をみんなで考え、まちづくりをすすめた方がよいですね。私たちが活動している郷土料理の研究と特産品の開発も多少なりともお金がかかりますが、みんながアイデアを出し合って、私たちが住むこのマチに少しでも役立つ方法を考えるようになりました。でも、他の団体と一緒に活動できる場や発表する場所があったらもっと素敵なことだと思います。

**市長** 市民がともに活動できる場や発表できる場所の確保が、今後の課題ですね。

**対馬** イギリスのある町で、手作りのお土産を売っている町があります。そこにはプロの指導があつて、集められた素人の作品を工夫して販売しています。

留萌もこれだなーと思いました。お土産も売れる作品づくりが必要だと実感しました。私たちのグッズも生産量の課題がありますが、留萌にしかないものを作りたいと思っています。

そのためにはプロの指導も受けながら、作品に対してのこだわりを考えていきたい。やっぱり、売れる作品づくりが必要だと思います。そして、時間

ことを学び、そして活動して行くことが大切だと思います。

**市長** そうですね。現在は65歳以上を高齢と言っていますが、現代の高齢者の方たちは、昔と比べてずいぶん若々しいし、知識、体力、能力を持っている方が沢山いらっしゃいます。その能力を発揮しないのはもったいない。そのパワーを必要としている人たちも多いの



です。

多くの人々が、連携を図ることが必要な時代になってきています。

**近江** そうですね。サークルに、どんどん入った方がよいと思います。  
**対馬** ボランティアと言えば硬く考えてしまう人が多いけど、決してそうではありません。私の叔母

に余裕のある高齢者の方や福祉の店で頑張っている方たちとも一緒に取り組んでいきたいと思っています。  
**近江** そう、そう。いろんな形で留萌のまちづくりに取り組んでいる人が多いと思います。そのネットワークをつくりたい。

**大内** そう。地域に密着した人々の輪を築きたいと思っています。効果的になると思います。

**大内** 昨年YOSAKOIを結成し、踊りに必要な「鳴子」を高地県の人から20組寄付していただきました。これを、地元で作れないかと「ふれあいの家」にお願いしたところ、良い鳴子が出来上がりました。YOSAKOIは、いろんな方たちの手によって支えられています。留萌のマチも人も良いし最高です。

**佐藤** 本当に留萌ってすばらしいマチだと思います。留萌には四季折々の美しい自然や、おいしい食べ物、の材料が沢山あると思います。でも、いつも見る光景が当たり前になってしまい、その良さに気づかなくなってしまうことがあります。地方からのお客さんたちからは「留萌っていいよね」と言われたとき「はっ」と我に返るときがあります。

は話し相手のボランティアをしています。

もっと簡単なことと思っしてほしい。例えば、買物や子守をしてくれる人。また、窓拭きや雑巾を作ってくれる人も、ボランティアとして活動しています。

**大内** 私も介護のボランティアを少しだけしています。自分のできることから始めました。

ちよつとした雪かきや、冬期間の入浴サービスを受けに行けない人など、ちよつとしたボランティアを求めている人もいます。

**市長** それでは、最後に21世紀へ向けての抱負をお聞かせ下さい。

**近江** 人との輪を広げたい。私たちがみんなが楽しく、健康に暮らせるまちづくりをしたいと思っています。

**対馬** お土産と観光面の勉強をして、見た目できれいなまちづくりをしたいと思っています。

**大内** 留萌をもっと、もっと好きになって、他の地域との交流を図りたいと思います。

**佐藤** 自然な形で明るいまちづくりにしたい。そして、華を咲かせたいと思います。  
**市長** どうもありがとうございます。今年の皆さんのご活躍を大いに期待しております。